

1 はじめに

手話部は、聴覚に障害のある方々に日本語案内係さんの説明を手話で通訳し、私達健聴者と同じ情報を提供していく活動をしています。聴覚障害者に九州国立博物館の魅力や展示物を楽しんで頂くために手話通訳は大切な仕事だと思っています。もちろん、博物館だけではなく「いつでも・・・どこでも・・・」と私たちは、講演会・医療・就労の場・教育など生活のあらゆる場面で、通訳活動を行っている者たちです。

さらに、聞こえないという障害について、また手話について一人でも多くの方に理解を広める啓発という意味でも、責任ある活動だと考えています。私達、手話や聴覚障害者に関わる仕事やボランティア活動をしている者にとっては、当たり前な知識、情報が関わりを持ったことがない人たちにとっては、未知の世界に等しいようです。

例えば、「聴覚障害者」と「視覚障害者」という言葉を混乱させて使っている方は、かなりおられます。

「知的障害者」「精神障害者」「身体障害者」・・・同時に様々な事を学び、啓発も行っています。

さて、手話部は、他のボランティアさんとは違うかたちで九州国立博物館での活動がスタートしました。私達手話部は、福岡県手話通訳問題研究会・筑紫地域班です。単独サークルの地域班では、会員数などで十分な活動が出来ないと考え、近隣4市1町に呼びかけ平成17年4月に結成されました。つまり、団体に登録しているわけです。結成のきっかけは、聴覚障害者の「九州国立博物館の建設工事途中の見学会に参加したが通訳がなく説明が伝わらなくて残念だった・・・」という声を聞いたことからです。聞こえる者（健常者）と同じ情報を共有してほしいと思っているので、「これはどうにかしなければ！」と、思ったのです。

筑紫地区の手話活動を行っている、福岡県手話通訳問題研究会の会員に呼び掛けると賛同してくれるメンバーが集まりました。

2 聴覚障害について

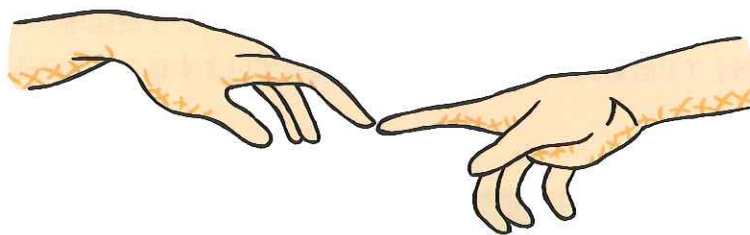
今は、「聴覚障害者」や「聴力障害者」と言う言い方をしている聞こえない方々ですが、聞こえの程度は、一人一人全く違います。聞こえなくなった原因も個々人違います。育った、地域・環境が違う・・・などから対応方法も異なります。

手話・筆談・口話・触手話など様々です。手話も地域、年齢、育った環境、教育で違います。「重複障害」の方もおられます。聞こえなくて見えない「盲ろう者」。聞こえなくて知的障害も併せ持つ人。聞こえなくて身体の障害もある方。見えない見にくいという障害のある方には、その人に合わせた手話を表出しないとイケません。その場合、通訳者はその方の見え方に合わせてお一人に一人付くということになります。

まさに、通訳者の数や知識・技量が問われます。

その為、学習会や聴覚障害者から話を聞いたり交流会を行ったりしているのです。机上で学ぶのと実際、聴覚障害者と触れ合うのでは手話技術の向上は全く違ってきます。

【通じる】



3 活動について

- (1) 館内案内通訳
- (2) バックヤードツアーと展示室における展示解説員の解説を通訳
- (3) 博物館での行事の通訳
- (4) その他 来館者の対応

4 通訳までの流れ

【事前依頼】

依頼者 → → → → → → → → 博物館交流課 → → → → → → → → 手話部代表者 → → → → → → → → 通訳者

聴覚障害者個人

地域班作成の依頼書

依頼者、案内係

依頼者、通訳者

聴覚障害者団体

博物館作成の依頼書

コース・時間確認

決定通知

聴覚障害者の職場

聾学校（小・中・高）

手話サークル

聴覚障害者団体や社会福祉協議会、学校などから事前に交流課に依頼があると手話部の代表に相談があります。代表は観覧の参加者・時間・コース・人数などを考慮して、必要な人数の通訳者を募集します。

通訳者が決定すると、通訳者と依頼者に対して集合時間・集合場所・その他の必要事項を載せて通訳者決定通知書を送ります。確認と報告の意味で交流課にも同じものを送っています。

聴覚特別支援学校からは毎年見学に来られ通訳依頼があります。その中で、先生は「皆が社会に出たらこのようにあらゆる場面で手話通訳を依頼することができる社会になりました・・・それも頭に入れておいてください。あらゆる場面で通訳者をお願いできるようになったのですよ！」と、話されたのが印象的でした。聴こえない学生さん方は、まだ、日常生活の中で手話通訳派遣を利用することがないので、そういうことも話しておきたいと言われていました。嬉しい事でした。

【通訳待機】

通訳者には次の月の都合のいい日を土、日、平日を問わず出してもらい午前担当、午後担当に分けて1名～4名ずつの当番表を作ります。『手話通訳』の腕章をつけて待機していますが、当然、通訳者が一人もない日もあります。

【手話通訳のきっかけについての講演など】

博物館・美術館等で手話通訳を始めたのは私たちが九州国立博物館で始めたのが、最初でした。

「全国手話通訳問題研究集会」で2年連続レポート発表をし、他の通訳団体の刺激になったことは間違いありません。

また、北九州の「いのちの旅博物館」から100名以上のボランティアさんが来館され手話通訳について話をさせてもらいました。

9月には、東京国立博物館より職員さんが来られ、通訳のきっかけ・経緯・現状などの話を聞きたいということでしたので約2時間話をさせていただきました。

聴覚障害者の感想

- 通訳者がいると思わなかったのがうれしかった。
- 通訳者がいて十分に楽しむことが出来た。
- 解説を読んでも意味が良くわからないので通訳者がいるのは助かる。
- 平日は、事前に申し込みをしないといけないのは不便だ。
- 通訳ありがとう、また来ます。
- どの博物館に行ってもこのように通訳者がいたらいい。
- また、来ます。
- 九州国立博物館には手話通訳者がいる事を、聴こえない仲間知らせます。

3 おわりに

今後の課題

- ① 平日の通訳依頼に対応できる通訳者の確保・育成。現在、夜の例会を月に一回、これは博物館に限らず、幅広い学習会をおこなっています。昼の例会は博物館の概要や展示解説など通訳の実践を行っています。日本語案内係さん、展示解説の方々に協力頂いていますが、地域の通訳活動や仕事を持つ人が多いため、参加者が少ないのが悩みです。
- ② リピーターの増加に伴い専門的な知識と通訳技術が求められる。学習会の充実と参加。
- ③ 通信費など経費の問題。
- ④ 博物館職員や日本語案内係さんへ聴覚障害や手話通訳に関して理解啓発と良好な関係作り。
- ⑤ 盲ろう者への触手話・難聴者・中途失聴者へノートテイク対応の為の人材育成。
- ⑥ 小学部の生徒にも伝わる工夫（手話表現・ボードを使って絵や文字で表現）

私達は、案内ボランティアの説明を手話通訳するだけが仕事ではありません。

特に国連で「手話は言語である。」と国連で採択された今、九州国立博物館でも「手話」が聴覚障害者の大切なコミュニケーション手段・言語としての理解が広がりつつあります。

手話通訳活動を通じて、聴覚障害者や手話について一人でも多くの人に理解して頂くという大切な仕事も担っています。



聴覚障害者と一緒に避難経路確認

★ボランティア受付カウンターに「聴覚障害者が来館された時に・・・」



「簡単な手話を覚えましょう！」

「指文字表」を置いています。

空いた時間に見て下さい。

*指文字とは日本語の「あ」～「ん」を指の形で表したものです。

手話を補ったり、手話で表せない時等に使います。